

○ 八王子市で飼料米利用促進テーマに交流会、各地の取組事例が報告

飼料用米を活用した日本型循環畜産の発展をめざそうと、各地の飼料用米の生産・利用の状況について関係者による情報交流会が22日、東京・八王子市内で開かれた＝写真。「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会」（主催：超多収穫米普及連絡会）と称した同会には、消費者や畜産・稲作農家、流通関係者、行政関係者らが集まり、各地の実践報告のほか、飼料用米で育てた卵や牛乳、鶏肉、豚肉などの試食・試飲やパネル展示も行われた。

交流会では、農水省・畜産振興課草地整備推進室の岩波道生室長と全国農業協同組合連合会営農販売企画部の谷清司専任部長、TOKYOX-Associationの植村光一郎会長がそれぞれ基調講演を行った。このうち全農の谷部長は07年から実践している飼料用米の取組みが報告。耕作地のコスト削減策や家畜への利用方法、耕畜連携による堆肥、副産物収入、飼料原料としての付加価値、国民的合意形成の取組み・行政の支援対策など各項目で検討を進めており、うち畜種別に配合飼料に添加できる飼料用米（玄米の場合）の上限について、鶏（ブロイラー含む）は全ステージで60%、豚では乳後期45%、子豚・肥育・種豚で60%、肉牛（育成期含む）で60%まで利用が可能であることを確認できたと説明した。一方で、飼料用米をめぐる課題として米の政策転換に生産・流通・利用実態がついてゆけず、生産現場や物流、飼料製造、農場利用など各方面においてインフラ整備など早急な体制整備が必要だと指摘した。植村会長は、TOKYOX豚もことし1月15日から全農家において指定飼料に飼料米（玄米）15%を配合



していることを紹介。飼料米摂取の枝肉の肉質検討や、各専門家による試食・官能検査

を重ねた結果、脂の粘りが良く、融点が低いなど従来よりも良い成績が出ていることを報告した。また岩波室長からは、「水田活用の直接支払交付金」の見直しの概要や近年の飼料用米の生産動向、飼料用米の利活用の推進に向けた交付金やリース事業の概要などが説明された。

また事例報告では山口市南部にある農事組合法人山口瀬戸内グループの飼料用米生産の取組みや生活協同組合パルシステム福島による飼料用米を給餌した畜産物の取組みが報告された。パルシステムでは07年からボークランドグループ（秋田・小坂町）向け飼料米をJA北いわてとJAかづので作付けを開始し、08年2月に「日本のこめ豚」、10年には「こめたまご」「こめ鶏」として商品を企画・販売。「こめ豚」の場合、08年の生産は2,800頭（飼料米生産：07年55t・11ha）だったものが、13年は3万頭（同12年750t・156ha）に拡大しているという。パルシステムでは13年度、提携産地で1,880tの飼料用米を生産し、肉豚約5万頭、鶏95万羽などを飼養する計画という。

○ 日本ハムグルメイドステーキが順位を上げ5位にー2月POS洋惣菜

流通システム開発センターとKSP-POSデータの2月洋惣菜の売れ筋商品ランキング（全国のスーパー・生協等851店舗の集計）によると、50位以下を含む総販売金額は3億2,202万円、個数は153万3,771個だった。1店平均37万8,407円（前月比5,795円増）、1802個（同12個増）。平均単価は、210円（前月208.1円）となった。

ベスト3は、①日本ハム石窯工房マルゲリ

ータ1枚、②日本ハム4種チーズのハンバーグ85g×3、③イシイミートボール120g×3となった。ベスト10内では4位まで不動、5位に前月6位の日本ハムグルメイドステーキ208gが上昇した。他にも前月9位の伊藤ハムラピッツァアルトバイエルン1枚が7位に浮上するなど10位以内では顔ぶれが変わらなかったものの変動があった。（9面資料欄参照）